

少しの違いで味が変わる。水道水。

東久留米市立南中学校

一年四組

藤岡

星風

僕にとって水道水とはとても身近にあるものであって、必要不可欠である。毎日僕は、麦茶や水を水筒に入れて飲むという行動をしている。そのおいしい麦茶や水がカラカラになつた喉をキーンと冷やして、潤してくれる。この感じは、とてもたまらないな。と思つて

いる。

だが、この夏に水道水に関するこれとは違ふ面白い体験をした。それは、夏休みの部活動の時のことである。僕が水筒の中に入れていた麦茶がなくなつたので水道水を入れた。僕はまたあの感じを味わえると思つてワクワクしていた。そしていざ飲んでみると、いつもの味と違つていた。おいしくないわけではないがもう一度飲もうと思える水ではなかつた。なぜなら、いつものような冷たい水

ではなく生ぬるいし、なぜか家の蛇口から出てくる水道水と味が違かったからである。なので僕は「同じ水道水であっても屋内と屋外では冷たさや味が変わってくるかもしれない」と思った。そこで僕は一週間家の水道水と屋外の水道水を飲み比べてみた。思っ通り、屋外の水道水から出てきた水道水がいつもの味と違っていた。

飲み比べが終わった後、なぜ屋外の水道水がいつもの味と違うのかを知りたかったので調べてみた。すると、これには夏場での水温上昇が関わってきていた。人間がおいしいと感じる水温は、十一度から十六度であり給水タンクなどの配置場所で水温は変わってくる。日かげがない所に置かれ、その一週間は猛暑日だったので、いつもの味と違うのだと感じたんだろうなと考えた。このようなちょっとした違いで味が変わってくるようだ。このように、水道水の工夫として、水道水に氷

を入れたり冷蔵庫で冷やして飲めばいいと僕は思った。一方で調べていくと、水温が高くても低くても水道水に関しては変わらない事がある。それは、安バして水道水を飲んだり使えたりするという事である。例えば東京では、毎日ホームページで水質データを公表している。また、自宅の水道水がこの浄水場から来ているかなども知ることができる。このような取り組みを見ていると、沢山の方々が我々のために安全な水を真剣に考え、守り我々に居てくれる熱意が伝わり、これからもこの水道水を感謝の気持ちで飲み、使っていくきたいなと思った。

我々の中には、っおいしくないという理由で水道水を飲まない人がたくさんいると僕は思う。世界的に見たら、水道水がまず飲めない人がたくさんいる。その中で我々は、水道水が飲めるという恵まれた環境にいるのだから、その事に感謝して飲まなければならぬ。僕は思う。また水道水がっおいしくない

〜という理由で飲まない人もいるが何か工夫すればおいしく飲めると思う。僕もっそんなにおいしくないな〜と思うときが時々あるの  
で自分なりに工夫しておいしく飲みたいと思  
う。安びして飲める水道水を使うのにたずさ  
わってる方々全員に感謝していこうと思っ  
た。